

## ■ 経営政策部

### I 実り多い産業と人々の集うまちづくり

#### § 4 人々の交流を盛んにするしくみづくり

- 重○水辺活性化事業【ミズベリング事業】 . . . . . No.4-11
- 重○移住・定住促進事業【市の人口抑制に取り組む事業】 . . . . . No.4-12
- 国際交流事業【友好都市親善交流事業】 . . . . . No.4-13
- リニア推進事業【リニア中央新幹線の整備促進】 . . . . . No.4-14

### IV 将来像実現に向けた取り組み

#### § 24 親しみやすく機能的な市役所づくり

- 広報紙発行事務【広報紙による情報発信】 . . . . . No.24-5
- ホームページ管理事務【インターネットによる情報発信】 . . . . . No.24-6

#### § 25 健全で安定した行財政基盤づくり

- 地方創生総合戦略調整事業【まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進】 . . . . . No.25-13
- ふるさと納税事業【ふるさと納税の推進に取り組む事業】 . . . . . No.25-14

事務事業名	水辺活性化事業					部局名	経営政策部	所属課	経営企画課
施策名	4	人々の交流を盛んにするしくみづくり				担当名	政策推進担当	課長名	小宮山 和人
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度( H26年度～H29年度)	
	1	2	1	5	240	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標			
<p>◇笛吹川及び近津用水を活用する中で地域のにぎわいを創出し、観光産業の活性化を図る事業。</p> <p>◇地域住民・関係団体・学識経験者・地域の事業者で事業推進のための検討会議を開催。</p> <p>◇主な事業費(単位:千円) 委託料 480</p>		<p>【目的】 かわまちづくり計画に基づき、ソフト・ハードの両面から市の賑わいの創出につながる事業を展開し活性化に結びつける。</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標) ・笛吹市を訪れる観光客の滞在時間の延長。 ・各種イベントの参加者を増やす。</p>			
(2) 総事業費の推移	単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画
事業費 投入量	国庫支出金	千円			<p>「笛吹市ミズベリング構想」に基づき、水辺に親しみ、水辺を活用する中で、笛吹川やその支流に広がる観光市街地の活性化に取り組む。</p> <p>◇平成28年度に引き続き、実証実験(オープンカフェ・イルミネーションなど)</p> <p>◇水辺の楽校開催</p> <p>◇ミズベリング構想の検討会議開催</p>
	財源内訳				
	県支出金	千円			
	地方債	千円			
	その他	千円			
一般財源	千円	6,735	801	1,572	
事業費計(A)	千円	6,735	801	1,572	
人件費	正規職員延従事人数	人	1.50	1.50	1.50
	人件費計(B)	千円	10,290	10,448	10,448
	トータルコスト(A)+(B)	千円	17,025	11,249	12,020
補助事業等					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
<p>1次評価者【課長・局長】</p> <p>かわまちづくり計画に基づき、水辺を活用した事業を進めてきた。オープンカフェについては、実証実験ということであったが開催時期、開催場所、開催方法を再検討する必要がある。 また、ソフト事業として実施した「水辺の楽校」については、引き続き開催し親水意識の向上を目指していく。</p>
<p>2次評価者【部長・消防長・支所長】</p> <p>石和温泉の活性化のため国の交付金等を活用して様々な事業展開が図られた。事業の中には、実証実験的意味合いでの実施事業も含まれており、必ずしも全ての事業が地域のにぎわいを創出することにつながらない状況もあった。 次年度は、今年度の反省を踏まえ、発展させる事業、継続する事業、縮小廃止する事業等評価を明確にしなが、地域振興に努めていく必要がある。</p>
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)
<p>目標 笛吹市内の宿泊者数135万人</p> <p><input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた      <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた      <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>目標値については、数値が確定していないが概ね達成できる見通しである。 水辺活性化事業については、イルミネーション事業やオープンカフェ事業などを進めてきたが、開催時期や広報活動など不十分な点があった。平成28年度実証実験的な取組みもあったため、そのデータを生かして行きたい。</p>

事務事業名	移住・定住促進事業					部局名	経営政策部	所属課	経営企画課
施策名	4	人々の交流を盛んにする仕組みづくり				担当名	移住定住担当	課長名	小宮山 和人
法令根拠						個別計画	まち・ひと・しごと創生総合戦略 笛吹市人口ビジョン		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H28年度～)	
	1	2	1	5	180	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標				
◇地域おこし協力隊や地域おこし企業人などと連携し、笛吹市に関する情報を発信し、笛吹市の知名度を高める。 ◇東京などで積極的に移住相談会など(28回)を開催し、笛吹市に移住者を呼び込む。 ◇お試し住宅などを整備し、笛吹市に来てもらえる体制を整える。 ◇移住者4件、7人 ◇主な事業費(単位:千円) 報償費 3,741 共済費 488 報償費 35 旅費 374 需用費 757 使用料及び賃借料 536 工事請負費 2,393 備品購入費 149 負担金 3,526		【目的】 ◇本市の魅力を全国に発信し、知名度を高める。 ◇住んでみたいと思われる受け入れ体制を整え、人の流れをつくる。  【目標】(数値化できるものは数値目標) ◇『まち・ひと・しごと創生総合戦略』に基づき、平成31年度に、5件/年の移住者を確保する。併せて、サテライトオフィス入居希望団体を5団体とする。				
(2) 総事業費の推移	単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画	
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円			◇東京などで移住相談会等を、30回程度開催する。 ◇補助金を新設し、サテライトオフィスの設置を促進する。 ◇空き家バンクの登録に関する補助金を新設し、登録物件を増加させる。
		県支出金	千円	324	75	
		地方債	千円			
		その他	千円	1,080		
		一般財源	千円	10,595	16,700	
	事業費計(A)	千円	0	11,999	16,775	
人件費	正規職員延従事人数	人	1.00	1.00		
	人件費計(B)	千円	0	6,965	6,965	
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	18,964	23,740	
補助事業等	山梨県お試し住宅整備促進支援事業費補助金(28年度) 山梨県甲斐適住居移住サポート事業費補助金(29年度)					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
1次評価者【課長・局長】 初年度事業として、情報発信にかかる部分での活動を進めてきた。また、次のステップのための「お試し住宅」「サテライトオフィス」設置など受入体制の準備もできた。今後は、モデル地区などを設定する中で、市民を巻き込んだ受入体制の整備を進めて行く必要がある。
2次評価者【部長・消防長・支所長】 新たに移住定住の担当を設置し、本格的に移住定住の取り組みを開始した。東京での情報発信や次年度に向けての新たな補助制度の創設など、積極的な取り組みができた。しかしながら、すぐに顕著な人口増加は厳しいため、継続的な情報発信や移住希望者へのきめ細やかな対応、受入体制の強化に努め、事業効果が高まることを期待したい。
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)
目標 初年度の一環として具体的な数値目標は持っていないが、積極的にセミナー等を開催するなど先進市に追いつくよう努力する。 <input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった 平成28年度実績にあるよう事業推進を図ってきた。また、来年度以降に向けての「お試し住宅」の整備やサテライトオフィスに係る制度、空き家バンクに係る制度(補助金)などを設けた。

事務事業名	国際交流事業					部局名	経営政策部	所属課	経営企画課
施策名	4	人々の交流を盛んにするしくみづくり				担当名	企画調整担当	課長名	小宮山 和人
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	2	1	10	10	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標					
<p>◇友好都市である、ドイツ・バートメルゲントハイム市、フランス・ニューイサンジョルジュ市、中国・肥城市との交流を図るとともに、国際性豊かな人材の育成、市民文化の向上に資するため、国際化への対応を行う。</p> <p>◇H28.9.9～9.15において、ドイツ・バートメルゲントハイム市へ友好交流視察団14名(市民公募8名を含む)の派遣を行った。</p> <p>◇主な事業費(単位:千円) 報償費 100 旅費 136 負担金補助及び交付金 8,214</p>		<p>【目的】</p> <p>◇引き続き友好都市との交流に努めるとともに、市民文化の向上、市の国際化へ向けた取り組みを図る。</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標)</p> <p>◇市民や事業所などが参画した国際交流事業の展開を目指す。 ○訪問、受入れなど交流に携わる市民、事業所の数70</p>					
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画	
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円				<p>◇市国際化推進指針(H24年度～H29年度)が最終年度となる。指針に基づく国際化推進体制の確立に向けて、国際交流を推進する新たな組織として、国際交流に携わる団体や個人を横断的につなぐ、行政と市民の中間的な組織の設立に取り組む。</p>
		県支出金	千円				
		地方債	千円				
		その他	千円				
		一般財源	千円	725	8,499		
	事業費計(A)	千円	725	8,499	819		
人件費	正規職員延従事人数	人	0.20	0.40	0.40		
	人件費計(B)	千円	1,372	2,786	2,786		
トータルコスト(A)+(B)		千円	2,097	11,285	3,605		
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。	
<p>1次評価者【課長・局長】</p> <p>国際交流協会(仮称)設立を目指す検討会の設置について準備を始めた。将来的には民間主導型による国際交流事業推進組織の設立を目指していく。 また、H28年度は予定されていた友好都市(ドイツ:バート・メルゲントハイム市)との交流事業ができた。</p>	
<p>2次評価者【部長・消防長・支所長】</p> <p>友好都市(ドイツ:バート・メルゲントハイム市)との交流は、民間レベルでの交流も含め十分果たされ、民間交流の基礎をつくることができた。また、多くの国際交流も積極的に行い、教育交流や東京オリンピック合宿地誘致なども行うなど多くの交流も持てた。 しかしながら、笛吹市の国際交流を総合的にまとめながら事業を推進する組織の設置ができていないため次年度での設置が必要である。</p>	
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
<p>目標 親善交流に関わった両市民の人数(150人)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり達成できた      <input type="checkbox"/> おおむね達成できた      <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>ドイツバードメルゲントハイム市訪問14人 中国天津市からの教育訪日事業310人⇄受け入れ学校(市内9校、市外1校)</p>	

事務事業名	リニア推進事業					部局名	経営政策部	所属課	経営企画課
施策名	4	人々の交流を盛んにするしくみづくり				担当名	企画調整担当	課長名	小宮山 和人
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度( H26年度～H39年度)	
	1	2	1	5	40	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標				
<p>◇H26.10.17国土交通大臣より工事实施計画の認可を受けたリニア中央新幹線について、その建設に向けた沿線地域と事業主体である東海旅客鉄道株式会社、用地取得事務を担う山梨県との連絡・調整を図る。</p> <p>◇主な事業費(単位:千円) 使用料及び賃借料 8 負担金補助及び交付金 89</p>		<p>【目的】 ◇中央新幹線の建設に向け、沿線地域、土地関係者の合意形成を図る。</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標) ◇事業主体、県と沿線地域、土地関係者との調整を支援し、事業のスケジュールの進展を目指す。</p>				
(2) 総事業費の推移		27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)		
投入量	事業費	国庫支出金	千円			
	財源内訳	県支出金	千円	104	115	371
		地方債	千円			
		その他	千円			
		一般財源	千円			
	事業費計 (A)		千円	104	115	371
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.40	0.50	0.50
人件費計 (B)		千円	2,744	3,483	3,483	
トータルコスト(A)+(B)		千円	2,848	3,598	3,854	
補助事業等	リニア中央新幹線県委託金					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
<p>1次評価者【課長・局長】</p> <p>中央新幹線路線の中心線測量は完了しているが、その後の用地測量に向けての動きは足踏み状態である。地域の希望について、地域住民の立場に立った要望・調整を事業主体、県に対して進めて行かなくてはならない。</p>
<p>2次評価者【部長・消防長・支所長】</p> <p>事業推進にあたっては、整備予定地域では様々な課題が山積している。国家的プロジェクトの推進は必要なことではあるが、地元自治体として、地域の皆さんへの十分な説明や不安事項の解消、要望事項の実現に向けて、事業主体や県に対し、地元の立場に立った働きかけ等も行っていく必要がある。</p>
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)
<p>目標</p> <p><input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた      <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた      <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>事業推進の具体的な目標指数等はないが、事業主体であるJR東海での事業進捗状況の中、地元としっかりしたコミュニケーションを図っていく。平成28年度については、地元との合意形成が進んでいない部分もあるが、接点は確保できている状態である。</p>

事務事業名	広報紙発行事務					部局名	経営政策部	所属課	経営企画課
施策名	24	親しみやすく機能的な市役所づくり				担当名	広聴広報担当	課長名	小宮山 和人
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	2	1	3	80	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績) ◇市からのお知らせ及び地域での活動や日常生活に役立つ情報を分かりやすく提供するため、月1回広報紙を発行する事業。 ◇主な事業費(単位:千円) 需用費 16,128					(3)平成29年度の具体的な目的・目標 <b>【目的】</b> 市の情報を得ることによって、市・行政への興味関心が高まり、市民の行政施策への参画を促進する。 <b>【目標】 (数値化できるものは数値目標)</b> 広報ふえふき発行部数／広報紙の掲載記事の誤植の件数(2回以下)／市民からの好評価の件数(2回以上)					
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画 ◇広報ふえふき発行の継続 ※掲載する記事について、つねに読みやすさの追求を行う。 26,000部×12ヶ月				
投入量	事業費	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		一般財源	千円	15,118	16,128	15,288				
	事業費計 (A)	千円	15,118	16,128	15,288					
人件費	正規職員延従事人数	人	0.80	0.80	0.80					
	人件費計 (B)	千円	5,488	5,572	5,572					
トータルコスト(A)+(B)		千円	20,606	21,700	20,860					
補助事業等										

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。	
1次評価者【課長・局長】 作成スケジュール管理をしっかりと行い、定期発行ができた。内容については、できるだけ市民にわかりやすいように段組、構成等を工夫するようにした。また、メインとなる記事、特集記事について、さらに市民の皆さんが関心を持てるよう工夫していく必要がある。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 決められた発行日に合せての編集作業を着実に実施し、市民への定期的情報提供媒体としての役割を果たしてきた。若年層から高齢者まで幅広い市民の皆様が、毎月の発行を心待ちにし手に取ってもらえるような更なる工夫が必要であると思う。	
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載) 目標 毎月広報を読んでいる人の割合87% <input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった	
目標指標を調査することはできなかったため、平成29年度目標としては掲載記事の誤植の件数とした(2件以下) 例年と同数字の26,000部の発行が継続出来、掲載内容やレイアウトの工夫、読みやすさなど、興味を得られるよう工夫も行う事が出来たと考える。しかしながら2件誤植があり残念であった。	

事務事業名	ホームページ管理事務					部局名	経営政策部	所属課	経営政策課
施策名	24	親しみやすく機能的な市役所づくり				担当名	広聴広報担当	課長名	小宮山 和人
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	2	1	3	80	2			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標					
<p>◇行政情報や市民に密着した情報、県内外から本市を訪れる方への観光情報などを笛吹市公式ホームページを使い、各課と連携を取りながら、詳細かつ速やかに提供する事業。 また、市内5箇所に設置してあるライブカメラの保守を行っている。</p> <p>◇主な事業費(単位:千円) 役務費 69 委託料 1,204 使用料 129 合計 1,402</p>		<p>【目的】 市民が市の情報を得ることによって、行政への興味関心が高まり、行政施策への参画が促される。 市外からの笛吹市を訪れる人が増加する。</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標) ホームページ掲載情報数(新着情報) ホームページ訪問者数(アクセス情報)</p>					
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画	
事業費 投入量	財源内訳	国庫支出金	千円				<p>◇ホームページ / ツイッター / フェイスブックの運用及び保守 / fuefuki e-books 運用</p> <p>※H30年度中のホームページのリニューアルに向けた準備を進める。</p>
		県支出金	千円				
		地方債	千円				
		その他	千円				
		一般財源	千円	2,702	1,402		
事業費計 (A)		千円	2,702	1,402	1,578		
人件費	正規職員延従事人数	人	0.60	0.60	0.60		
	人件費計 (B)	千円	4,116	4,179	4,179		
トータルコスト(A)+(B)		千円	6,818	5,581	5,757		
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
<p>1次評価者【課長・局長】</p> <p>ホームページ / ツイッター / フェイスブックの運用及び保守を行っている。アクセス数については、例年とほぼ変わらない状況にあるが、さらに見やすく、フレッシュな情報発信をおこなって行くと同時に、ホームページ自体のリニューアル(フル・モデルチェンジ)を考えて行く必要がある。</p>
<p>2次評価者【部長・消防長・支所長】</p> <p>SNSの普及は、若者へのスマホ利用等により浸透が図られ、WEB上での情報発信は、行政情報の発信ツールとして大きな役割や意味を持つようになった。反面アクセス数を増やしていくには、情報の新鮮さが常に求められ、その重要度は飛躍的に増大してきた。自治体の情報がリアルタイムに提供でき、求められる情報を容易に、気軽に、楽しく入手できる工夫を更に重ねる必要がある。今年度も、多くの情報の発信ができ、情報アップ数の増大にも努めた。今後も多岐にわたる情報の提供に努め、読者目線の見せ方も更に工夫していく必要がある。</p>
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)
<p>目標 市役所のホームページを見ている人の割合30%</p> <p><input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>例年とほぼ同数の訪問者があり、市政や観光情報など各種事務事業を市内外に伝えられたと考えるが、最新技術を用いて内容の見直しや携帯端末に対応したホームページのリニューアルを行う必要がある。財政面への協議も必要と考える。(割合30%の検証については実施していないが、アクセス件数から考えれば達成できていると考えた。)</p>

事務事業名	地方創生総合戦略調整事業					部局名	経営政策部	所属課	経営企画課
施策名	25	健全で安定した行財政基盤づくり				担当名	政策推進担当	課長名	小宮山 和人
法令根拠	まち・ひと・しごと創生法					個別計画	笛吹市人口ビジョン 笛吹市まち・ひと・しごと創生総合戦略		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H27年度～)	
	1	2	1	5	230	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)			(3)平成29年度の具体的な目的・目標				
<p>◇まち・ひと・しごと創生法に基づき、笛吹市が平成27年度に策定した「人口ビジョン」に掲げた将来人口の目標値を達成するため、将来にわたって活力ある地域社会の維持発展を図るための目標や具体的施策の方向性等をまとめた「笛吹市まち・ひと・しごと創生総合戦略(H31までの5年間)」を推進する事業。なお、改訂及び施策の推進にあたっては、笛吹市、市民並びに産官学金労言等で構成する推進組織(笛吹市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議)で審議、検討、検証する。</p> <p>◇主な事業費(単位:千円) 旅費 300 消耗品 100</p>			<p>【目的】 笛吹市、市民及び産官学労金言の関係者の参画により、総合戦略の各種施策を推進、掲げた目標(KPI:重要業績評価指標)の達成を図り、人口減少に歯止めをかけ、活力ある地域社会の維持、健全な財政基盤の確立に寄与する。</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標) ①合計特殊出生率 1.58 ②年間宿泊者数 140万人 ③認定農業者数 830人 ④転入者数-転出者数 -126人 ※H31年に100%を目指す。</p>				
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画	
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円	10,000			<p>◇総合戦略に基づく施策の推進。 ◇総合戦略で設定した目標値(KPI・重要業績評価指標)を基に施策の効果を検証し、必要に応じて総合戦略を改訂。(PDCAサイクル)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度実績内部評価 4～6月</li> <li>・前年度効果検証 6～7月(外部有識者会議)</li> <li>・議会報告 7月</li> <li>・公開 8月</li> </ul> <p>(※総合戦略の見直しが必要な場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改訂作業 8～12月(総合戦略会議開催)</li> <li>・パブリックコメント 1～2月</li> <li>・改訂版の公開 3月</li> </ul> <p>※交付金の活用に向けた支援(随時)</p>
		県支出金	千円				
		地方債	千円				
		その他	千円				
		一般財源	千円	809	418		
事業費計(A)	千円	10,809	418	818			
人件費	正規職員延従事人数	人	1.66	1.20	1.20		
	人件費計(B)	千円	11,388	8,358	8,358		
トータルコスト(A)+(B)		千円	22,197	8,776	9,176		
補助事業等		地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)					

2 評価(CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性(ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。	
<p>1次評価者【課長・局長】 総合戦略に掲げた目標達成のための各種事業の展開を推し進めて行く。そのためには進行管理はもとより、関係省庁等より提示されている事業メニューの内容をしっかりと確認し、有効と思われる事業採択に向け関係部署との連絡調整を図っていく必要がある。</p>	
<p>2次評価者【部長・消防長・支所長】 国から提供される総合戦略に掲げた目標達成のため、活用可能な交付金制度の情報を、市役所各部局にリアルタイムで提供し、有利な交付金活用を促した。 また、総合戦略で掲げた重要業績評価指標(KPI)に近づく取り組みは、多く実施され外部評価委員会での審議・評価もできた。 今後は、更に交付金の活用を視野に入れた事業の取り組みを促しながら、KPIで掲げた目標を達成するため各部局への働きかけを強化する必要がある。</p>	
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
<p>目標 20%(平成27年度目標値:統計データが翌年度6月に揃うため)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>達成度 55.9%(平成27年度:平成28年7月検証・評価) 総合戦略期間(5年)のKPIを持つ中で事業推進を行っているが、先行型交付金事業、加速化交付金事業においては単年度事業のKPIをクリアしている。</p>	



事務事業名	ふるさと納税事業					部局名	経営政策部	所属課	経営企画課
施策名	25	健全で安定した行財政基盤づくり				担当名	移住定住担当	課長名	小宮山 和人
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H27年度～)	
	1	2	1	5	10	10			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標				
◇新商品の開拓(55品目→116品目) ◇納税者管理台帳のシステム改修  ◇主な事業費(単位:千円) 共済費 518 賃金 3,628 需用費 61,451 役務費 1,200 委託料 2,127		【目的】 ◇市の知名度向上 ◇市の特産品の振興 ◇市への来客効果  【目標】(数値化できるものは数値目標) ふるさと納税額 1億4千万円				
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画 納税額のアップに向けて ◇新たな商品の開拓 ◇寄附額の多様化など、ポータルサイトのリニューアル
事業費 投入量	事業内訳	国庫支出金	千円			
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円			
		一般財源	千円	59,882	68,924	
事業費計 (A)		千円	59,882	68,924	52,148	
人件費	正規職員延従事人数	人	1.00	1.00	1.00	
	人件費計 (B)	千円	6,860	6,965	6,965	
トータルコスト(A)+(B)		千円	66,742	75,889	59,113	
補助事業等						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。	
1次評価者【課長・局長】 納税額については、増加傾向にある。さらに増加させるために人気の高いシャインマスカットや路地桃について、限定数を増やしていく必要がある。また、納税額に見合った返戻品のメニューをさらに検討していく必要がある。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 寄付者へのお礼の品等の工夫や観光振興並びに地域産業等の発展につながる現地消費型商品の開発など、現状に甘んじることなく発展的な事業の展開が図られたと考える。ふるさと納税制度のあり方等物議をかもしている状況下ではあるが、地方自治体としてのモラルをもったお礼の品の選択決定も求められる。笛吹市の特色が寄付者に十分伝わる商品開発など、更なる寄付の増加に繋がる取り組みを行っていきたい。	
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 平成27年度実績(100,555千円)を上回る。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった	
平成28年度実績見込(101,500千円)であり前年度実績を上回る。返戻品のメニューを充実したことなどから納税額のアップに繋がったと思われる。 今後、更に返戻品の工夫をするとともに本市のアピールにつながる事業展開を行っていく。	